

葉山町子育て支援センター ぽけっと 〒240-0111 神奈川県三浦郡葉山町一色1493-1 TEL: 046-876-4152

冷たい風にキラキラと光る電飾。何かとせわしない師走ですが、子どもたちは胸躍らせていることでしょう。今年もたくさんのお顔をありがとうございました！

毎日いろいろな出逢いがある中で、だれにも忘れられない思い出があることと思います。そのひとつに、幼稚園教諭になって5年目、私の保育観の基礎を築いてくれた子どもたちとの出逢いがありました。なかなか集団に入れず、何かあるとすぐにパニックを起こしてしまう4歳のてっちゃんが、友だちと一緒に安心して過ごせるようになるには？私はそのことで毎日必死でした。ときにはクラスを主任の先生に任せ彼と二人で過ごしたり、あるときは彼を任せたり、てんやわんやの日々。そんなある日、友だち同士のケンカにびっくりしてパニックを起こした彼が、園庭へ飛び出しました。そうなるときはいつも、制服のフレーザーと通園バッグ、帽子を身につけていきます。そうすることが彼にとって、一番安心できたからです。小雨が降る中、とぼとぼ歩く彼を追いかけようとしたとき、かなこちゃんが私を遮って「あたしが行く」と。そういうかなこちゃんも、彼と同じようにフレーザーにバッグ、帽子を身につけていました。二人の様子を、クラスのみんなで見守りました。ただ静かにゆっくりと寄り添って歩き、ぐるっと園庭を一周まわる頃には、彼も落ち着いていました。帰ってきたかなこちゃんに「ありがとう」と言うと、「どうして？私はてっちゃんがやりたいことをいっしょにやっただけ」と。ガーンとしました。寄り添うって、こういうこと？私が言った「ありがとう」という言葉は宙に浮いていました。それから少しずつクラスに慣れ、色々な分野に精通し、独特でユニークな感性をもつ彼は、みんなを驚かせながら人気者になっていきました。今でも何かあるたびに彼や周りの子どもたちのことを思い出します。原点に戻らせてくれるからです。集団で生活するのが難しい子を早く集団に入れようとするより、「みんなキミのこと大好き」と伝えること、そして周りの子どもたちが「みんなちがってみんないい」ということを肌で感じられる子に育てることが大切なことです。それはおとなの後ろ姿をみて学ぶもの。おとなの私たちは、それができているのでしょうか？いつも大切なことを教えてくれる子どもたち。来年も、また素敵な出逢いがありますように。

みなさんにとってよい年を迎えられますように、心よりお祈り申し上げます。

センター長 山浦彩子(やまうら あやこ)

11・12月の予定

◆♪ いいこといいこと♪

「ふれあい遊び」毎日 11:00-11:30

〈第1・3水曜〉えいごで遊ぼう (松本ようこ先生)

〈第2第4木曜〉おやこダンス (近ゆきこ先生)

〈第2火〉マニスお話し会 (丸山さちこ先生)

◆「0歳児つどいの広場」毎週木曜 10:00-11:00



年末年始の開館時間

◆大掃除

12/28(金) 12:00閉館

※今年最終日となります

◆休館日 日曜・月曜・祝日

12/29(土)~1/3(木)

◆職員会議 12/18(火)

※広場・一時預かりのご利用は13:00迄になります

◆新年の開館 1/4(金) 13:00~



いいこといいこと♪
広場の遊びから

小学生ボランティアが活躍中！

我が家の小4の娘は、小さい子が大好きで、以前から近所の子の面倒をよく見ています。夏休み中、私がぶちの仕事がある日は一緒に来て「小学生ボランティア」として過ごしていました。初めは遊び半分で迷惑だろうと思っていましたが、一緒に遊んだり、掃除を手伝ったりと、意外と良い仕事をしてくれます。本人たち(他にも小学生ボランティアのお友だちが数名います)も「仕事」と自覚を持っているようで、積極的に動き最後には貴重な戦力となっていました。ぶちのお子さんと同じ子ども同士ですから、遊ぶのが楽しいようで、私たち大人の出番がいらぬ程、とぼを離れない子もいました。小さい子は年の近いお姉さんと関わることでいろいろなことを真似して刺激を受けます。大きい子は、小さい子のお世話を通してやさしさや思いやりを学びます。

お互いにとても良い経験になると思います。夏休みが終わってからも本人の強い希望で放課後お手伝いに来ています。広場やぶちに小学生がいればぜひ声をかけてください。よろしく願います♪



◆ 千田 真代 (せんだまさよ) ぶち担当 ◆

花育&食育
園芸活動から

ひろばのおやこ園芸を通して

今年も残すところあと1ヶ月…ぽけっと畑はさつまいもの収穫も終えて休耕期に入っていますが、来春に向けての花づくりとしてチューリップの球根の植え付けを今月6日に予定しています。恒例の『チューリップday』は球根の『きゃーちゃん』を主人公に楽しいお話会〜うた遊び等を『いいこといいこと』で楽しんだ後、お庭に出て親子で球根の植え付け体験を毎年行っています。1〜2歳児のお子さんでも小さな手に球根を大事に大事に握りしめて、きゃーちゃんのお部屋となる花壇の小さな穴にひとつずつ球根をお座りさせて…「土のお布団かけてあげようね」と声をかけると皆優しく土をかけてくれて、手のひらでポンポンと土をならしている姿にいつも感激しています。お水やりもみんな大好きで、何度もどうさんのじょうろに水をくんで花壇へ運ぶ姿…とても愛らしい姿を見ているとこんなに小さな子どもたちでも植物を育てる側に立てる園芸活動は、やっぱりいい！素晴らしいな〜と感じます。「園芸」の意味が今はよくわからなくても、何かとても大切なものに触れている感覚、大事にしたいいやいやのものを自分の手で土の中に植えるという体験が自然に五感に記憶されていく…ちょっとかっこつけて言う『ネイチャーフィーリング』でしょうか。命のはじまりの場に親子と一緒にいる、その風景も見ていていつも暖かく心に残ります。説明の言葉はどんなにいらぬんですね。感覚=フィーリングが大切。でも所要所で「土のおふとん」「ポンポン」「だいじだいじ」「お水おいしいって言ってるね」「チューリップさん咲きますように」芽や葉が出てきたら「はっぽのあかちゃんこんにちわ〜」「お水のおかな〜」等等、時には植物を擬人化してみたり、そんな柔らかな対話をしながら親子で静かな植物の命と向き合って、ぽけっとで皆でお花を育ててもらえたらいいなと願っています。

ひろばの『いいこといいこと』おやこ園芸は、季節ごとに楽しい企画で展開しています。来年も楽しいぽけっと園芸を企画します！

◆ 淵本 明美 (ふちもとあけみ) ぶち・園芸担当 ◆

ほけっと

ほけっとまつり

11月25日(日)
11:00~14:00

11月25日(日)、第4回ほけっとまつりを開催しました。前日は冷たい雨がしとしとと降っていてお天気が心配されましたが、当日の朝はあたたかな陽射しがお庭に降り注ぐ絶好のおまつり日和となりました。参加人数はこれまでの最多記録！子ども120名、おとな99名、総勢219名の親子が参加してくださいました。恒例となったオープニングのハッピーマザーズさんのお話会に加え、ユキ先生の親子ダンスや福田氏のジャグリング…スペシャルなイベントが目白押し。お庭ではもち米を蒸すかまどの煙や湯気、ほかほか汁と命名されたみそ汁の湯気、やきいもを焼く焚き木の煙が漂いおもしろい風景が…そして、おもちつき、風船ヨーヨーがお祭り感をより一層盛り上げました。みんなの部屋では、「結」のコーナーではまつほっくりのクリスマスツリー作りとわたがし、さかぐちテッサン教室コーナーでは作品展示とテッサンの体験が行われ、たくさんのちびっこたち、ママ、パパも作品に取り組みました。職員一同にとっても、気合の入るたのしい一日となりました♪

クリスマスツリー作り & わたがし



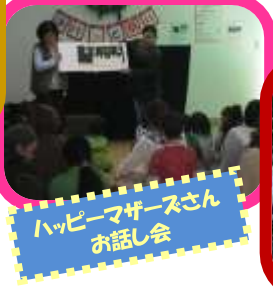
ユキ先生の親子ダンスの様子



Mr. Fukuda ジャグリング



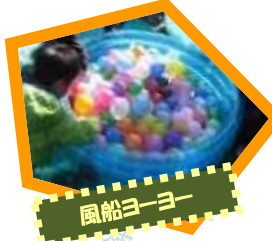
おもちつき



ハッピーマザーズさん お話会



やきいも



風船ヨーヨー



ほかほか汁

さかぐちテッサン教室 作品展示 & テッサン体験

ファミリー・サポート・センター

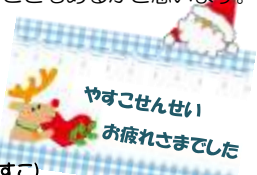
長い間、お世話になりました。12月一杯で、ほけっとを卒業することになりました。ほけっとの開設以来、まかせて会員さんに助けていただきながら、葉山らしい温かなファミサポの運営の仕事に携わることができ、かけがえのない幸せな時間を過ごすことができました。本当にありがとうございました。心から感謝を申し上げます。

この4年間で実感したのは「助けを借りていい」ということです。子育ての苦勞は、とてもママ一人で背負いきれるものではありません。つい頑張ってしまうママたちをみていると、「大丈夫、助けを借りてもいいよ」とお話ししたくなってしまいます。まかせて会員さんと過ごす子どもたちは、泣くこともあるけれど温かな心を受け止めています。まわりの人に大切にしてもらったという記憶は豊かな思い出となり、温かな心を育てます。大丈夫。親としての自分を大切に、困ったときは遠慮なく助けを求めてくださいな。

そして、いいこといっぱい♪。いつも、いつも、お騒がせしていましたね。絵本を読んでいるとき、子どもたちも一生懸命聞いてくれました。本当にありがとう。キラキラした笑顔は私は一生忘れられない大切な宝物です。私の人生のほけっとにしまっておきますね。そして、時々、そっと取り出して幸せな気持ちを思い出して、ニコニコすることを、どうぞお許しくださいな。

1月から、みなとみらい・ワールドポーターズの中にある、NPO法人神奈川子ども未来ファンドの事務局でお仕事することになりました。新しい子育て支援のお土産を葉山に持って帰りますね。そして、地元葉山での子育て支援活動は、これからも一生懸命取り組みます。いろいろなところでみなさんにお会いすることもあるかと思っています。見かけたら「やすこさん」「野北さん」と声をかけてくださいな。名残りは尽きませんが、皆さんとお会いする日を楽しみに、これからも頑張ります。本当に、本当にありがとうございました。

アドバイザー 野北 康子(のきた やすこ)



子育てをこころの発達から考える 子のこころ 親のこころ



親の望みどおりの子？ 子の望みどおりの親？

「先日の健診のときに『落ち着きがない』の欄にチェックされて…」と、2歳3ヶ月のくんのお母さんが肩を落として話されました。その傍らでくんは黙々とクルマで遊んでいます。「いまは落ち着いて遊んでいらっやいますね」と私。ほけっとの広場ではできて、健診のお部屋ではむずかしかったのでしょうか。「私の膝の上でじっとしていられなくてチョロチョロと…」もっと慣れた場所や好きなものや集中できるものがあるなど条件が違えば落ち着いていられたのでは…もしかしら、お母さんの緊張がくんに伝わってしまっただけかもしれません。健康診断はお子さんの成長発達を確認するところ。私自身も我が子の健診では、「できている」「できていない」を意識してドキドキとがたいせつ…わかってはいても「できている」にチェックされたいのが親心というもの。がっかりされたお母さんの気持ちはとてもよくわかります。

子育てのバイブルとして広く愛読されている『子どもへのまなざし』を著した精神科医佐々木正美先生は、お母さんたちに「親の望みどおりの子どもにしたいですか？」「子どもの望みどおりの親になりたいですか？」という問いかけをよくされます。そこには、「親の望みのままに『できている』を増やそうとすると、かえってお子さんの自信を失わせてしまいますよ」というメッセージが込められています。「できる」「できない」という結果を重視する子育ては、ややもすると子どもに「できない」「苦手な」ことばかりさせて、いつも苦勞しないといけない状態をつくってしまう。反対に、子どもの望みに合わせる子育ては「できる」「好きな」ことをやるので、「たのしい♪かたん♪」と自信満々で成長できる…親が無理にさせなくても「苦手なこともやってみようか」というやる気が自然に湧いてきます。佐々木先生は、そういう「自己主張してありのままを認められてできる」自己肯定感(=真の自信)が、子どもの可能性をもっと豊かに広げるとおっしゃりたいのです。幼児は自ら成長する力、生命力に溢れています。その可能性を信じて親の想いをすこし抑えて「待つ」…“子の望み親”でありたいと思いませんか？

◆上野 祐子(うえの ゆうこ) 副センター長・心理相談担当 ◆